

## 会 議 概 要

1. 会 議 名..... 第2回安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり審議会...
2. 日 時..... 令和8年1月29日(木) 午後2時から午後4時20分...
3. 会 場..... 市役所本庁舎4階...大会議室...
4. 出 席 者..... (敬称略) 尾碁ゆみ、出井博文、平林文、菊池聡、廣瀬豊、帯刀佳郎、  
塩野治幸、山口敬之、嶋田奈麻美、北村早希、剛佈和、石田悠真、森下右里子、  
薫木啓夏
5. 担当課出席者... 人権共生課長... 櫻井、大場、岡村...
6. 公開・非公開の別..... 公開.....
7. 傍聴人 1人..... 記者 0人.....

### 1 開会（人権共生課長）

### 2 会長あいさつ

社会が激しく変化する中、安曇野市では誰もが輝ける共生社会の実現に向け、初の多様性を尊重し合う共生づくり計画を策定、実施しているところではあるが、早くも次期計画策定の時期に来ている。本日の会議では次の計画のベースとなる大切なところ。是非、建設的なご意見を。

### 3 協議事項 【発言者 ◎会長 / ・委員 / ⇒人権共生課】

(1) 第2次安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり計画（令和10～令和14年度）策定スケジュールおよびアンケート項目について（人権共生課説明）

#### 【質疑応答】

- ・DV だと思ふことの項目では、DV に限定して聞くのか。その他の性暴力については聞かないのか。  
⇒DV 防止法の観点からこの項目を選定しているが、選択肢等聞き方によっては、その他の性暴力についても聞くことは可能かもしれない。検討してみたい。
- ・性別欄について、戸籍上の性別で聞くのか。戸籍上の性別で聞くとすれば、性的マイノリティの人は答えにくくなるかもしれない。設問の下に丁寧に理由を記載する必要がある。  
⇒事務局としても丁寧に考えていきたい。調査の内容も考えながら、性的マイノリティの方に寄り添える形にしたいので、またご相談させていただく。
- ・性的指向、性自認に悩んだことがあるかという項目については、自由記述ではないと思うが、書かない人も多いのではないか。大切な内容であり、信頼している人にしか話さないようなことで、設問によってはいきなり土足で踏み込むような気持ちにさせてしまうかもしれない。選択肢で回答する形式であれば、選択肢を吟味したうえ、当事者に寄り添う形で答えたくない人は答えなくてもよいといった配慮があるとよい。どちらにしても回答してもらえないと思う。  
⇒これまでの意識調査でも踏み込めていない部分。市として取り組んでいく姿勢や性的マイノリティについて考えてもらう機会としたいので、なにか性的マイノリティの分野で設問を作りたいと思っている。どのような形で設問すればよいのか、具体的にご相談させていただきたい。
- ・アンケートの設問の中だと担当者の意図は伝わりにくいと思うが、最適解を一緒に考えていきたい。

- ・外国籍市民と日本国籍の市民と分けて聞くのは決定事項か。外国籍市民に対しても、DV や性自認や育児介護等についても聞きたい。市民を外国籍かどうかで分ける必要があるのか。
- ⇒外国籍の方に男女共同参画などの言葉の説明から入るのは難しいのではないかと考えている。また母集団の規模が違うため、必要な標本が取れない可能性がある。多文化共生は男女共同参画とともに大きな柱になっているため、より正確な状況把握をしたいと考えている。
- ・統計的に必要な人数を抽出すればよい。項目として外国籍の方にも聞きたいものが多々あるので、そこを実現してもらいたい。前回の項目を参考にする必要もなく、項目の中で比較すればよい。
  - ・外国の方にもひとり親や介護している人もいる。地域の方との関わり方や生活上の差別、年金等の加入など聞かなければならない項目もあると思うが、普通の生活についても日本国籍の市民と同じものを聞いてもらいたい。
  - ・日本語能力についても難があるのは、外国籍の方に限ったことではない。
  - ・市民 2,000 人の抽出の中には外国人も含まれるのか。
- ⇒現在の想定ではそのように考えている。皆さんからのご指摘のとおり、外国籍の方もいろいろな状況、立場の方がいることは想定しており、困りごとの項目の中で、どのようなことで困っているのかを聞く予定ではある。困りごとに焦点を当てながら、深掘りしていくために分けて考えていた。事務局としても検討したい。
- ・アンケートの対象については、母集団が何か、サンプルが何を代表しているのかを明確に示すべき。母集団のとらえ方、アンケートが何を代表としているのかを考えてもらえればよい。
  - ・性別については、安曇野市としてどのように考えていくかということによる。主語を明確にして、どのような人にどのような政策、方針を取っていくのか、市の意図を明確にして、慎重に考えてもらいたい。
- ⇒政策、方針等を考えながら設問を作っていきたい。性別欄についても必要性を慎重に考えて、配慮していきたい。
- ・回収率を上げることを考えた方がよい。郵送式だけでなく、Web 回答と併用することも増えている。社会調査をやる際には回収率を上げることにかなり気を遣っている。ボールペンを入れておくことや、市長の顔写真付きで市長からのお願いを入れるだけでも変わってくると思う。前回の意識調査を見ると字がみっちりやさしくない。読みにくい。そのあたりを変えることも必要。選択肢も含めて、市の施策に活かせるものを厳選した方がよい。国や自治体の調査を参考にすることも良いが、学術研究等を参考にする方法も良いと思う。
- ⇒回収率を上げるために、Web 回答もできるか検討しているところ。アンケートの量については回答率に大きく関わってくるのだと考えているので、設問数や選択肢は必要最低限にしていきたい。学術研究についても参考にできればと思う。
- ・身近に外国人が増えていると感じるかという項目はどういった意図があるのか。施策につながるのか。
- ⇒実際に安曇野市では傾向にあるが、市民の方もそのような実感があるのか、身近に感じてもらえているのかといったことを知りたいと考えている。
- ・外国人かどうかを見た目で判断するのは差別的ではないか。
  - ・アンケートの回収率向上について、まず手書きだと答えない。物をもらえたり、よりよい未来を

想像できたりするゴールが見えれば、協力したいと思える。回答時間の目安があれば答えやすい。

・身近に外国人が増えているかについては、別の統計調査でも設問がある。統計的には増えているが、増えていると感じている人が少ないというデータが出ているところもある。それによって、住み分けになっているのではないか、見えない仕事をしているのではないかということで施策につながることもあるので、何を目的とするかによる。

・外国人が増えることについての項目は外国人住民を指しているのか、外国人観光客なのかによっても変わってくるので、そのあたりも明確にした方がよい。

⇒外国籍の方が増えているかという実感については、何をもちて外国籍の方かと判断するのかという部分で差別的だとかのご指摘も危惧していたところではあるので、目的や聞き方、どのような施策につながるか考えながら慎重に検討したい。外国人住民または観光客などの対象にしても明確にしていきたい。

・設問数については、分野ごとに対象者を別の2,000人にすることは出来ないか。

⇒予算の関係もあるが、いろいろな方法を検討しながら、回答率を上げる工夫をしていきたい。

・外国人住民向けについては、回答率をもっと厳しくなるのでは。国勢調査では調査員が回ってきてくれるので、そういったことは想定しているか。

⇒前回の回答率は、日本国籍市民のものより低かった。協力企業などへの声掛けなどの工夫をしていきたい。

・ハラスメントについて、セクハラについてのみの設問の予定か。

⇒性暴力の分野で聞くが、個別具体的な例を選択肢に挙げて、啓発にもつなげたいと思っているため、その他のハラスメントも入れていくことは可能。内容については考えていきたい。

・設問の量について、前回より増えているように見受けられるが、項目を整理するか、選択肢の見直しをした方が良いのではないか。

⇒現段階では、前回と同じ設問量にする予定だが、選択肢によっては全体のボリュームが増えてしまうので、重点を絞るなどして項目を減らしていけたらと考えている。

・ユニバーサルデザインについては、聞いても難しいのでは。市で進めているユニバーサルデザインのまちづくり浸透度やその政策など具体的に聞いてしまった方がよい。

◎ユニバーサルデザインについては、意識調査は今回初めて。市としても手探りの部分もあると思うが、市ではガイドブック等も作成している。この活用についてはいかがか。

⇒様々なところに設置しているほか、出前講座や研修等で活用している。市としても先行事例が少ない中、手探りで進めているところ。範囲が広いため、市では引き続きこころのユニバーサルデザインを中心に進めていく予定。

◎市としてこころのユニバーサルデザインを進めていくとのことだが、どう進めていくべきか、ご意見あるか。

・「こころのユニバーサルデザイン」は寛容性だと思うが、このように表現することでわかりにくくなっているところもあると思う。

◎インクルーシブ遊具等の取組についても、以前共有いただいたが、そういったところも進めていくということか。

⇒市の中でも、さまざまな部署が関わって取組を進めているが、引き続き進めていく。

◎ハード面については時間がかかると認識しているが、その点について、市はどう考えているか。  
⇒予算や新たに何かを作る又は改修するタイミング等もあり、今すぐにとするのは難しいが、そうしたタイミングの際に、ユニバーサルデザインの観点を積極的に入れるために、携わる職員にユニバーサルデザインの意識向上に向けての研修等を行っている。

- ・このユニバーサルデザイン=思いやりというようにわかりやすいものを打ち出していけばよいのではないか。
- ・ガイドブックの中で、「相手の立場に立って考え、思いやりのある行動ができること」と書かれてあるが、「相手の立場に立って考える」ことが苦手な人もおり、このように書かれてその人がどう感じるか。意味は理解できても行動は難しい。推進していこうというのはわかるが、どのように感じるかはちょっと難しい。

◎設問においても聞き方を検討しなければならないということ。

- ・アンケートの項目については国や県、前回と揃えるのではなく、もう少し考えた方がよい。分析は時間がかかると思うので、項目は絞った方がよい。選択肢について、誘導的になってしまうと結果的にポジティブな意見が多かったとしてもそのままポジティブには捉えられないので、考えた方がよい。
- ・男女共同参画については、分野ごとにしっかりアンケートを取っていただきたい。審議会の中にはそれぞれに得意な分野をお持ちの方がいらっしゃるので、それぞれにご意見をいただきながら進めていってほしい。例えば、18歳の息子にこのアンケートが届いたとして、お役に立てるのか少し疑問に感じるので、そういったところも含めて、しっかり検討していきたい。
- ・アンケートを啓発にもつなげるという事務局の意見もあったので、期待している。
- ・ユニバーサルデザインについては、進めば進むほど「当たり前」になってしまうので、具体的にできていないところ、うまくいっていないところを聞く方が有効ではないか。
- ・ユニバーサルデザインという言葉自体の認知度は高まっているものの、理解できているかは別。例えば市役所の本庁舎はユニバーサルデザインに基づいて作られているが、使いにくいところはないかといった「やっている施策」が本当にできているか等を聞いた方がよい。

(2) その他

なし

4 閉会

(以上)